

公 開
資 料 3

第 3 3 0 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 4 年 8 月 3 0 日

日 本 学 術 会 議

公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
Ⅲ 公開審議事項						
1. 委員会関係						
提案1	(分野別委員会)分科会委員の決定(追加2件)	第一部長、第二部長	5	分野別委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	第一部長、第二部長	内規18条
提案2	(分野別委員会合同分科会) (1)第二部合同分科会小委員会を設置すること(新規設置1件) (2)第二部合同分科会小委員会委員の決定(新規1件)	第二部長	7	(1)第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会に小委員会を設置する必要があるため。 (2)第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会における小委員会委員を決定する必要があるため。	第二部長	(1)会則27条1項、「部が直接統括する分野別委員会合同分科会について」 (2)内規18条
2. 協力学術研究団体関係						
提案3	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	9	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①日本公民館学会 ②日本知的資産経営学会 ③日本部活動学会 ④基礎教育保障学会 ⑤日本情報教育学会 ※令和4年8月30日現在2,114団体(上記申請団体を含む)	望月副会長	会則36条
3. 国際関係						
提案4	令和4年度代表派遣について、実施計画の追加及び派遣者を決定すること	会長	11	令和4年度代表派遣について、実施計画の追加及び派遣者を決定する必要があるため。	高村副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規19条2項、22条
4. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和4年度第3四半期】						
提案5	公開シンポジウム「人口減少時代の地域のかたち」の開催について	地域研究委員会委員長	13	主催：日本学術会議地域研究委員会地域学分科会 日時：令和4年12月4日(日)13:30～16:45 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—	内規別表第1

5. その他のシンポジウム等						
提案6	公開シンポジウム 「患者と医療者が協創するがん医療を目指して」の開催について	臨床医学委員会 委員長	15	主催：日本学術会議臨床医学委員会腫瘍分科会 日時：令和4年10月1日（土）9:00～11:30 場所：パシフィコ横浜 503号室（神奈川県横浜市）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第1
提案7	公開シンポジウム 「日本の物理学研究—過去・現在・未来」の開催について	物理学委員会委員長、総合工学委員会委員長	17	主催：日本学術会議物理学委員会・総合工学委員会合同IUPAP分科会 日時：令和4年10月1日（土）13:00～16:30 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案8	公開シンポジウム 「若手研究者をとりまく評価—調査結果報告と論点整理—」の開催について	若手アカデミー運営分科会委員長	19	主催：日本学術会議若手アカデミー、若手アカデミー地域活性化に向けた社会連携分科会 日時：令和4年10月6日（木）13:00～15:30 場所：オンライン開催	—	内規別表第1
提案9	公開シンポジウム 「食の安全と社会：科学者の社会への伝え方」の開催について	食料科学委員会委員長、農学委員会委員長	23	主催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会獣医学分科会 日時：令和4年10月8日（土）13:30～16:05 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案10	公開シンポジウム 「サイエンスアゴラ2022セッション『世界科学フォーラムinケープタウン：社会正義と未来への科学』」の開催について	若手アカデミー運営分科会委員長	25	主催：日本学術会議若手アカデミー、国立研究開発法人科学技術振興機構 日時：令和4年10月21日（金）16:00～17:30 場所：オンライン開催	—	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム 「21世紀前半に発生が確実視される国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	27	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会IRDR分科会 日時：令和4年10月22日（土）14:30～16:00 場所：JICA関西2階ブリーフィング室セッションシアター（兵庫県神戸市）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム 「自然災害を取り巻く環境の変化～防災科学の果たす役割」の開催について	防災減災学術連携委員会委員長	29	主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会 日時：令和4年10月22日（土）16:30～18:00 場所：オンライン開催 ※防災推進国民大会2022（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の中の一企画案	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム 「カーボンニュートラル化と資源循環に向けた高分子化学のチャレンジ」の開催について	化学委員会委員長	31	主催：日本学術会議化学委員会高分子化学分科会 日時：令和4年11月8日（火）13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂（新型コロナウイルス感染症の状況によっては、ハイブリッド開催またはオンライン開催を検討） ※第三部承認	—	内規別表第1

提案14	公開シンポジウム 「コロナ・パンデミックと格差・分断・貧困－現状と今後」の開催について	社会学委員会委員長	33	主催：日本学術会議社会学委員会社会理論分科会、一般社団法人日本社会学会 日時：令和4年11月13日（日）14:00～17:00 場所：追手門学院大学総持寺キャンパス大教室（大阪府茨木市） ※第一部承認	－	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム 「SDGsと結晶学」の開催について	化学委員会委員長、物理学委員会委員長	35	主催：日本学術会議化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会IUCr分科会 日時：令和4年11月27日（日）10:30～12:30（予定） 場所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス（兵庫県西宮市）（新型コロナウイルス感染症の状況により、ハイブリッド開催となる可能性あり） ※第三部承認	－	内規別表第1
提案16	日本学術会議中部地区会議学術講演会 『三重の海の多様性から広がる学術研究』の開催について	科学者委員会委員長	37	主催：日本学術会議中部地区会議 日時：令和4年12月9日（金）13:00～16:00 場所：オンライン開催 ※科学者委員会承認	－	内規別表第1
提案17	公開シンポジウム 「文化財保護に未来はあるか－日本の文化財のこれからを考える－」	史学委員会委員長	39	主催：日本学術会議史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会 日時：令和4年12月11日（日）13:00～17:30 場所：オンライン開催 ※第一部承認	－	内規別表第1

6. 後援

提案18	国際会議の後援をすること	会長	41	以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第19回年次総会	高村副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規39条
提案19	国内会議の後援をすること	会長	43	以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①サイエンスアゴラ2022（年次総会） ②第17回医療の質・安全学会学術集会 ③日本生命倫理学会第34回年次大会公開シンポジウム ④シンポジウム「社会的共通資本」	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ

7. その他

	件名	資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、9月28日(水)13:30～開催。	45

【分野別委員会】

○委員の決定（追加2件）

（経済学委員会 IEHA 分科会）

氏名	所属・職名	備考
村上 衛	京都大学人文科学研究所准教授	連携会員

【設置：第302回幹事会（令和2年10月29日）、追加決定後の委員数：11名】

（臨床医学委員会出生・発達分科会）

氏名	所属・職名	備考
水野 紀子	白鷗大学法学部教授	第一部会員

【設置：第302回幹事会（令和2年10月29日）、追加決定後の委員数：10名】

第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会小委員会の設置について

小委員会名：学協会における男女共同参画のあり方に関する検討小委員会

1	担当部及び関係委員会名	第二部
2	委員の構成	12名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>世界経済フォーラムが7月13日に発表した2022年版のGlobal Gender Gap Reportにおいて、日本のジェンダーギャップ指数は、146カ国中116位であり、また、研究者における女性比率も17.5%で、先進国の中で最低レベルが続いている。研究者の中では、特に、生命科学分野と理工学分野で、人事権のある上位職の女性比率が低い。生命科学・理工学分野における大半の研究は、チームで行い、複数名の研究者が連名で成果を発表するため、研究を進める上で、仲間がいるということが重要になってくる。研究の仲間を作る場が学協会であるが、多くの学協会で会長・副会長は男性であり、理事・評議員においても女性が少ないことが推察される。学協会における男女共同参画を推進するには、まず現状を把握することが必要であるが、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会に所属している自然科学系の学協会は118団体であり、千を超える同分野の学協会の実態は明らかになっていない。そこで、日本学術会議に登録している自然科学系の学協会の実態を調査し、ジェンダー・ダイバーシティに関する課題を明らかにし、それらの課題解決のための方策を提案するために本小委員会を設置する。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学系分野の学協会におけるジェンダー・ダイバーシティの実態調査 2. 実態調査から導かれる課題の抽出 3. 自然科学系分野の学協会のジェンダー・ダイバーシティの実態に関する情報の収集と課題の抽出 4. 上記の課題を解決する方策の提案 5. 上記の課題および解決の方策等の科学者コミュニティと社会への周知と啓発 <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和4年8月30日～令和5年9月30日
6	備考	※新規設置

【分野別委員会合同分科会】

○委員の決定（新規1件）

（第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会学協会における男女共同参画のあり方に関する検討小委員会）

氏名	所属・職名	備考
市川 哲雄	徳島大学大学院医歯薬学研究部教授	第二部会員
熊谷 日登美	日本大学生物資源科学部教授	第二部会員
北川 尚美	東北大学大学院工学研究科教授	第三部会員
篠原 美紀	近畿大学農学部バイオサイエンス学科教授	連携会員
原田 慶恵	大阪大学蛋白質研究所教授	連携会員
吉永 直子	京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻助教	連携会員

【設置予定：第330回幹事会（令和4年8月30日）、決定後の委員数：11名】

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概要
1	日本公民館学会 (https://www.kominkangakkai.net/)	本団体は、公民館を始めとする社会教育・生涯学習機関・施設及び関連するさまざまな機関・施設に関する研究を行い、もって公民館の発展普及に資することを目的とするものである。
2	日本知的資産経営学会 (https://www.jicma-jiam.com/)	本団体は、知的資産経営の手法の確立と普及を通じて、知的資産経営の研究を促進するとともに、知的資産に関する内外の学会との連携や学会員相互間の情報共有を図ることを目的とするものである。
3	日本部活動学会 (https://jaseca2017.jimdofree.com/)	本団体は、部活動に関する研究者、実践者、関係者が一同に集い、部活動を学術的に分析・考察し、実践に資するための知の蓄積およびそれらを公表し社会に貢献する場を構築することを目的とするものである。
4	基礎教育保障学会 (https://jasbel.org/)	本団体は、万人が義務教育をきちんと受けることができる社会を基本としつつ、就学前教育、職業教育、成人識字教育なども含めた幅広い教育を受けることができる社会の構築を目指し、基礎教育の実践と研究を軸として、教育・福祉・労働など様々な分野が交流し、互いの知見に学び合う場をつくり、会員相互の親睦、交流を図ることを目的とするものである。
5	日本情報教育学会 (https://jaie.info/)	本団体は、情報教育およびその関連分野の進歩普及をはかるとともに、人類の福祉に貢献することを目的とするものである。

令和4年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和4年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	IAP Policy Board Meeting	9月14日	オンライン	高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センター教授)	国際委員会	<ul style="list-style-type: none"> 代表派遣計画の追加 派遣者の決定 ※オンライン出席
2	S20 (Science 20)	9月20日 ～ 9月21日	ジャカルタ (インドネシア) / ハイブリット形式	梶田 隆章 第三部会員 (東京大学宇宙線研究所教授)	国際委員会	<ul style="list-style-type: none"> 派遣者の決定 ※実施計画については第322回幹事会(令和4年2月24日)にて承認済み。 ※オンライン出席
				高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センター教授)		
3	IAP (InterAcademy Partnership) 総会	11月1日 ～ 11月3日	アリゾナ (アメリカ) / ハイブリット形式	日比谷 潤子 第一部会員 (学校法人聖心女子学院常務理事)	国際委員会	<ul style="list-style-type: none"> 代表派遣計画の追加 派遣者の決定 ※実施計画については第322回幹事会(令和4年2月24日)にて承認済み。 ※第328回幹事会(令和4年7月27日)にて高村ゆかり第一部会員(東京大学未来ビジョン研究センター教授)の派遣を了承済み。 ※オンライン出席
				新福 洋子 連携会員 (広島大学副学長、広島大学大学院医系科学研究科教授)		

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
4	G7Research Summit	11月21日 ～ 11月23日	レイク・ルイーズ (カナダ)	岩崎 渉 連携会員 (東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻教授)	若手アカデミー	<ul style="list-style-type: none"> ・代表派遣計画の追加 ・派遣者の決定 ※現地出席予定
				谷内江 望 連携会員 (東京大学先端科学技術研究センター客員准教授、ブリティッシュコロンビア大学准教授)		
5	第3回国際ヒトゲノム編集サミット	3月6日 ～ 3月8日	ロンドン (英国)	石井 哲也 連携会員 (北海道大学安全衛生本部ライフサイエンス担当教授)	ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・代表派遣計画の追加 ・派遣者の決定 ※現地出席予定
				加藤 和人 連携会員 (大阪大学大学院医学系研究科教授)		

公開シンポジウム
「人口減少時代の地域のかたち」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会地域学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：地理学連携機構、人文・経済地理関連学会協議会（予定）
4. 日 時：令和4年（2022年）12月4日（日）13：30～16：45
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

人口減少は世界の先進国共通の課題である。日本も例外ではないが、その発現の仕方は地域によって大きく異なる。過疎地域や限界集落といった用語が人口に膾炙^{かいしや}したように、従来は農山漁村や地方都市といった文脈で人口減少が取り上げられることが多かったが、東京をはじめとする大都市圏においても人口減少が社会や経済に小さくない影響を及ぼしている。こうした地域的問題を考察し、今後の地域社会・経済の行く末を展望する学問分野として「地域学」が注目されている。そこで本シンポジウムでは地域学の視点から人口減少時代における地域の多様なかたちについて、幅広い市民・国民の皆様と議論を深めたい。

8. 次 第：

司会 小林 知（日本学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研究研究所准教授）

13:30 開会あいさつ

小長谷 有紀（日本学術会議第一部会員、独立行政法人日本学術振興会 監事）

13:35 第1講演「少子化・人口減少にむかう国家と地域—地域学の視点から」
山下 祐介（東京都立大学人文社会学部教授）

14:25 第2講演「百年まちづくり企業の住み続けられる地域のつくり方」
東浦 亮典（東急株式会社常務執行役員）

休憩（10分）（14:55～15:05）

15:05 報告1 「人口減少下の「選択される地域」：「企業の地域学」の展開をめぐって」

佐無田 光（日本学術会議特任連携会員、金沢大学人間社会研究域経済学経営学系教授）

15:20 報告2 「多文化教育と地域学」

池口 明子（日本学術会議連携会員、横浜国立大学教育学部准教授）

15:35 報告3 「人口減少時代における地域学の学び（仮）」

井口 梓（日本学術会議連携会員、愛媛大学社会共創学部准教授）

休憩・会場設営（5分）（15:50～15:55）

15:55 意見交換

コーディネーター 田原 裕子（日本学術会議連携会員、國學院大學経済学部教授）

16:40 閉会あいさつ

宮町 良広（日本学術会議連携会員、大分大学経済学部教授）

16:45 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「患者と医療者が協創するがん医療を目指して」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会腫瘍分科会
2. 共 催：第 81 回日本癌学会学術総会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 4 年（2022 年）10 月 1 日（土）9：00 ～ 11：30
5. 場 所：パシフィコ横浜 503 号室（神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1）
（ハイブリッド開催）
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

がんは日本人の死因の第一位を占める疾患であり、その克服を目指すためには、様々な視点からの取組が必要である。医学、医療からの取組については日本癌学会会員を始め専門の研究者らにより、数多くの最新の動きと成果が報告されている。他方、患者の意向やニーズを読み解き、より良いがん治療の選択肢を提供する点では、人文社会科学の研究の知見も不可欠であろう。しかしこれまで、医療研究者と人文社会科学系の研究者とが、がん治療をめぐる分野横断的に議論を深めるといった試みは、あまり活発に行われてきたとは言えない。本シンポジウムでは、がん患者の意向の理解や、治療における患者と医療者の協創（共創）などの視点から、複数の人文社会科学の分野の研究者とともに議論を前に進めることを試みる。

8. 次 第：

- 9:00 開会挨拶
名越 澄子（日本学術会議第二部会員、埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科教授）
村上 善則（日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所癌・細胞増殖部門教授、第 81 回日本癌学会学術総会会長）

◇総合司会

- 村上 善則（日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所癌・細胞増殖部門教授、第 81 回日本癌学会学術総会会長）

伊藤 泰信 (日本学術会議連携会員、北陸先端科学技術大学院大学知識科学系教授)

第1セッション「がん医療の現状と課題」

9:10 『がん治療現場での、医師からの説明と患者からの質問：消化器がん
化学療法を中心に』

朴 成和 (東京大学医科学研究所附属病院教授)

第2セッション「人文社会科学の視点から見たがん医療」

9:30 『サービスとしての医療』

藤村 和宏 (香川大学経済学部経済学科教授)

9:50 『患者の意向の尊重』

田代 志門 (日本学術会議特任連携会員、東北大学大学院文学研究科
社会学専攻分野准教授)

10:10 『がん患者体験調査』

高山 智子 (国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所
部長)

10:30 休憩

10:40 特別発言

『血液・腫瘍内科学の視座から』

三谷 絹子 (日本学術会議第二部会員、獨協医科大学内科学教授)

『がん看護学の視座から』

小松 浩子 (日本学術会議第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学
学長)

『文化人類学の視座から』

伊藤 泰信 (日本学術会議連携会員、北陸先端科学技術大学院大学知
識科学系教授)

第3セッション「総合討論」

11:05 モデレーター：伊藤 泰信 (日本学術会議連携会員、北陸先端科学技
術大学院大学知識科学系教授)

11:25 閉会挨拶

清宮 啓之 (日本学術会議連携会員、公益財団法人がん研究会がん化
学療法センター分子生物治療研究部部長)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「日本の物理学研究—過去・現在・未来」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会
2. 共 催：一般社団法人日本物理学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）10月1日（土）13：00～16：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

2022年はIUPAP（国際純粋応用物理学連合）の100周年を迎えます。IUPAP本部では、2022年7月より2023年7月までを100周年を記念する期間とし、参加領域に関連イベントの開催を呼びかけています。その呼びかけを受けて、日本学術会議物理学委員会と一般社団法人日本物理学会が合同で当該シンポジウムを開催することとしました。

IUPAPは、長岡半太郎博士がその発足に多大なる貢献をし、創立以来15名程がメンバーとして選出されています。また、山口嘉夫氏（1993-1996）、潮田資勝氏（2008-2011）が会長、福山秀敏氏（2002-2005）、前川禎通氏（2008-2011）、河野公俊氏（2011-2014）、東俊行氏（2014-2017）及び現在、梶田隆章氏（2021-2024）が副会長を務めるなど我が国のリーダーシップが大いに発揮されてきた国際学術団体です。ついては、我が国の担当機関である日本学術会議としても100周年を祝うシンポジウムを是非とも開催したいと考えています。

今回、提案する100周年記念シンポジウムは、日本物理学会と共同し、一般向け（特に高校生）にオンラインで開催することを予定しています。その目的は、IUPAP100周年の意図を汲み、これまでの日本の物理学史を総括的にその足跡をたどること、また、日本の物理学研究の現状を理解すると共にその未来像を描くこと、そして将来を担う若い人たちに興味を持っていただくことにあります。なお、2022年はIUPAPが主導する「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」に当たっており、本シンポジウムはIYBSSDの一環としても位置付けることができます。

8. 次 第：

- 13:00～13:05 Zoom の操作方法説明
- 13:05～13:10 開会のあいさつ：田島 節子（日本学術会議連携会員、大阪大学名誉教授）
- 13:10～13:15 趣旨説明：藤澤 彰英（日本学術会議連携会員、九州大学応用力学研究所教授）
- 13:15～13:45 早川 尚男（京都大学基礎物理学研究所教授）
「日本の物理学はいかに生まれて発展したか：窮理学から湯川へ」
- 13:45～14:15 菊谷 英司（大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構協力研究員）
「物理学と加速器 – 日本におけるその歴史–」
- 14:15～14:30 休憩
- 14:30～15:00 長谷川 修司（東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）
「物質を解明して役立つ物理学 – 日本人研究者たちの寄与–」
- 15:00～15:30 村尾 美緒（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）
「量子力学から量子コンピュータまで」
- 15:30～16:25 パネル討論「物理研究の未来と夢」
パネラー：橋本 幸士（京都大学大学院理学研究科教授・司会）、村上 修一（東京工業大学理学院教授）、関口 仁子（日本学術会議連携会員、東京工業大学理学院教授）、柳澤 実穂（東京大学大学院総合文化研究科准教授）、渡邊 悠樹（東京大学大学院工学系研究科准教授）
- 16:25～16:30 閉会の挨拶 田村 裕和（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院理学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年2022」（IYBSSD2022）連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「若手研究者をとりまく評価－調査結果報告と論点整理－」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー、若手アカデミー地域活性化に向けた社会連携分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）10月6日（木）13：00～15：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

世界的な競争、評価をめぐる問題、キャリアパスに関する課題など、若手研究者をめぐる研究・知識生産の環境は多くの課題を抱えています。安定的な活動基盤の獲得のために、時にチャレンジングな研究の回避、あるいは評価指標を過度に気にした活動などの弊害が指摘され、知識生産の可能性を損ねていくことが危惧されています。

日本学術会議若手アカデミーでは、2022年6月から7月にかけて「若手研究者をとりまく評価に関する意識調査」（Web アンケート）を実施し、全国の多くの若手研究者から回答を得ました。本シンポジウムでは意識調査の結果を報告するとともに、若手研究者をめぐる評価のあり方について幅広い視点から議論し、知識生産をめぐるより良いエコシステムの形成に向けた論点整理を行います。

8. 次 第（予定）：

13:00 開会挨拶

岩崎 渉（日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻教授）

13:10 趣旨説明

小野 悠（日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

13:20-13:50 報告

「『若手研究者をとりまく評価に関する意識調査』結果報告」

標葉 隆馬（日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員、大阪大学社会技術共創研究センター准教授）

13:50-14:20 講演

「経営学からみる若手研究者評価」

服部 泰宏（神戸大学大学院経営学研究科准教授）

「研究環境からみる若手研究者評価」

江端 新吾（東京工業大学戦略的経営オフィス教授、内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付上席科学技術政策フェロー）

「ライフプラン・キャリアパスからみる若手研究者評価」

加藤 千尋（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、弘前大学農学生命科学部准教授）

「産官学人材流動からみる若手研究者評価」

塚本 直樹（富士フイルム株式会社技術マネージャー）

「国際からみる若手研究者評価」

新福 洋子（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、広島大学副学長／広島大学大学院医系科学研究科教授）

「地域活性化からみる若手研究者評価」

小野 悠（再掲）

14:20-15:20 パネルディスカッション

パネリスト：講演者等8名

コーディネーター：

岸村 顕広（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授）

近藤 康久（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授）

15:20 閉会挨拶

望月 眞弓（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：若手アカデミーのため該当しない

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員)

公開シンポジウム
「食の安全と社会：科学者の社会への伝え方」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会獣医学分科会
2. 共 催：株式会社リテラジャパン、北海道大学、日本内分泌攪乱化学物質学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）10月8日（土）13：30～16：05
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

研究成果を社会に発信・還元するのは研究者の義務です。しかし、その伝え方に悩んでいる研究者も少なくありません。時に社会的に関心の高い「リスク」に関する研究成果は、社会に大きなインパクトをもたらしますが、誤解を招き意図しない引用をされるケースもあります。どうしたら研究成果を社会に誤解のないように伝えることができるのか、このシンポジウムでは食の安全と社会というテーマを設定しつつ、研究者と社会の「思うところ」のギャップについて議論し、相互に正しく情報を発信・受け止める方法を模索・共有します。

8. 次 第：

司会進行：石塚 真由美（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院獣医学研究
院教授、日本内分泌攪乱化学物質学会理事）

13:30-13:35 開会の挨拶 高井 伸二（日本学術会議第二部会員、北里大学名誉教
授）

13:35-13:50 始めに：科学者の言葉がなぜ伝わらないのか
西澤 真理子（日本学術会議連携会員、株式会社リテラジャパン代
表取締役）

- 13:50-14:10 メディアに伝えるときに何が問題になっているのか
澁澤 栄（日本学術会議連携会員、東京農工大学卓越リーダー養成
機構特任教授）
- 14:10-14:30 研究成果の発信と社会「ルポ 人は科学が苦手」から
三井 誠（読売新聞、ジャーナリスト）
- 14:30-14:50 科学者と社会：海外の視点
（WHO/農林水産省国際獣疫事務局（OIE）経験者予定）
- 15:00-16:00 総合討論
座長/司会：西澤 真理子（日本学術会議連携会員、株式会社リテ
ラジャパン代表取締役）
各講演者、企業参加者（2～3名予定）
- 16:00-16:05 閉会の挨拶 石塚 真由美（日本学術会議第二部会員、北海道大学
大学院獣医学研究院教授、日本内分泌攪
乱化学物質学会理事）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「サイエンスアゴラ 2022 セッション『世界科学フォーラム in ケープタウン：
社会正義と未来への科学』」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー、国立研究開発法人科学技術振興機構
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）10月21日（金）16：00～17：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

世界科学フォーラム（WSF）シリーズは、ハンガリー科学アカデミーがユネスコ、ICSU（国際科学会議）、AAAS（米国科学振興協会）と共同で1999年に開催した「世界科学会議」を前身とし、以降、科学界と社会に同時に影響を及ぼす切実な問題について対話を行う2年に一度のフォーラムで、今年のWSF2022は、「Science for Social Justice」をテーマに、南アフリカのケープタウンで開催される予定である。日本学術会議若手アカデミーでは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と共同で、WSF2022において、科学とグローバルな公益の関係について議論するセッションの開催を企画している。

また、JSTでは「科学」と「社会」の関係をより深めていくことを目的として、あらゆる立場の人たちが参加し、対話するオープンフォーラム「サイエンスアゴラ」を毎年開催している。本企画は、WSF2022のプレセッションとして、サイエンスアゴラ2022で開催するセッションであり、地球規模のウェルビーイングのために知識を生産する現在の科学システムの分配的正義の本質を理解する機会を提供する予定である。北半球や南半球といった地域、一国内の地域、そして異なる科学分野において、どのような課題が存在するのか。国際的な専門家からなるパネルディスカッションでは、多様な知識生産を推進するための現在の課題とその克服方法、そして公正な科学が公正で自由な開発、経済、産業活動を通じて社会のウェルビーイングに貢献する方法について、聴衆と議論する。また、本セッションを通じて、今日の科学政策に関する主要な議論の場となっているWSFに、できるだけ多くの声を届ける機会を作ることとする。

8. 次 第 (予定) :

16:00 開会挨拶、趣旨説明

荒川 敦 (国立研究開発法人科学技術振興機構「科学と社会」推進部部長)

16:07-16:35 講演

「科学システムにおける分配的正義とは何か？」

標葉 隆馬 (日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員、大阪大学社会技術
共創研究センター准教授)

「知識生産の南北地域格差～経済開発の観点から」

ルーラ・イングリシ=ロツツ (女性)

(グローバルヤングアカデミー共同議長、プレトリア大学教授)

「社会課題解決に向けたローカルナレッジの包摂」

小野 悠 (日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、豊橋技術科学大学大学院
工学研究科准教授)

「社会のウェルビーイングのために科学的知識を経済産業活動とどう繋ぐか」

(未定)

16:35-17:00 パネルディスカッション

パネリスト：講演者等4名

進行：標葉 隆馬 (再掲)

大川 久美子 (国立研究開発法人科学技術振興機構「科学と社会」推進部主任)

17:00-17:25 オープンディスカッション

パネリスト：講演者等4名

進行：大川 久美子 (再掲)

17:25 まとめ、総合コメント

(未定)

9. 関係部の承認の有無：若手アカデミーのため該当しない

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム
「21 世紀前半に発生が確実視される国難級災害を乗り越えるための
レジリエンス確保のあり方」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会
2. 共 催：防災減災連携研究ハブ (JHoP) *、公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構人と防災未来センター
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 4 年 (2022 年) 10 月 22 日 (土) 14:30 ~ 16:00
5. 場 所：JICA 関西 2 階ブリーフィング室セッションシアター (兵庫県神戸市中央区
脇浜海岸通 1-5-2) (ハイブリッド開催)
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

南海トラフ地震、首都直下地震など 21 世紀前半に発生が確実視される超巨大災害が切迫している。また、全国的に甚大な水害の発生の危険性が高まっており、経済・社会活動が集中する首都圏では深刻である。こうした国難級リスクを乗り越えるため、残された時間の中で何を準備して、発災後はどのように対応すべきかであろうか。学術、行政、民間、メディアの見地から、国難災害を乗り越える俯瞰的な戦略と実行可能な具体的方策について討議する。

8. 次 第 (予定)：

14:30 趣旨説明 (10 分)

田村 圭子 (日本学術会議連携会員、新潟大学危機管理本部危機管理室教授)

【基調講演：国難災害とは (15 分)】

14:40 21 世紀に国難災害がもたらす課題の全体像 (仮)

河田 恵昭 (公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構人と防災未来センターセンター長)

【国難災害を乗り越える3つのヒント（10分×3）】

14：55 津波シェルタータスカル8（仮）

水野 茂（株式会社ミズノマリン代表取締役）

15：05 伝えることで解決できること～残された課題解決のために～（仮）

大牟田 智佐子（株式会社毎日放送報道情報局報道業務部部次長）

15：15 大阪北部地震の経験から・あらゆる主体に基づく防災のあり方（仮）

多田 明世（元大阪府茨木市危機管理課長、よんなな防災会女子部管理者）

【提言「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」（30分）】

15：25 総合討論

（司会）川崎 昭如（日本学術会議連携会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授）

15：55 閉会挨拶（5分）

林 春男（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

*第24期課題別委員会「科学技術を活かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会」の議論及び提言を実行に移すために、国内16機関で組織された任意団体。

公開シンポジウム
「自然災害を取り巻く環境の変化 ～防災科学の果たす役割」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議防災減災学術連携委員会
2. 共 催：一般社団法人防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）10月22日（土）16：30～18：00
5. 場 所：オンライン開催
※防災推進国民大会2022（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民大会）の中の一企画案
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

自然災害を取り巻く環境が変化しています。時代とともに、災害の要因だけでなく、災害を受ける社会も急激に変わっています。地球温暖化、地形の改変、計画性のない都市のスプロール化、生物多様性の喪失、森林の荒廃など、多くの変化が顕れています。

「人新世」という概念が、地質学会などで検討されています。人類の活動は飛躍的に拡大し、一人当たりの環境負荷は増大し、爆発的に増加した人口との相乗効果により、地球の環境は改変されています。COP26 など地球温暖化に関する国際的な枠組みが本格的に議論されている現在、このような大きな時代認識を踏まえて、自然災害を取り巻く環境の変化と、その対応を議論するのは意義あることと考えます。

近年、環境の変化もあり、自然災害と感染症との複合災害、線状降水帯の頻発化、熱海の盛土崩落による土石流、トンガの火山噴火と津波、日本の海底火山の噴火と軽石の漂流など、新たな多様なハザード（危機）と災害が出現しています。また、新たに検討されている日本海溝・千島海溝周辺型地震では、寒冷で平坦で人口密度の低い土地における津波・地震対策が課題になっています。防災に関わる学協会では出現した多様なハザードへの備えという重大な課題に直面しています。

自然災害を取り巻く環境が変化する中で、防災科学が果たすべき役割に焦点を当てて、広く意見交換をしたいと思えます。

8. 次 第 (予定) :

- 司会 永野 正行 (日本学術会議連携会員、東京理科大学理工学部建築学科教授、一般社団法人防災学術連携体幹事)
田村 和夫 (日本学術会議連携会員、建築都市耐震研究所代表、一般社団法人防災学術連携体幹事)
- 16:30-16:40 趣旨説明 山本 佳世子 (日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究科教授、一般社団法人防災学術連携体幹事)
- 16:40-16:50 基調講演 人類の活動による環境変化と災害の多様化
米田 雅子 (日本学術会議第三部会員、防災減災学術連携委員会委員長、東京工業大学環境・社会理工学院特任教授)
- 16:50-17:40 「自然災害を取り巻く環境の変化と防災科学の果たす役割」に関する発表
- 16:50 「線状降水帯：その実態と予測精度向上にむけた学官連携」
安田 珠幾 (公益社団法人日本気象学会)
- 17:00 「地球温暖化や森林荒廃の条件下で発生する土砂災害の軽減に向けた砂防学の役割 (仮)」
小杉 賢一郎 (公益社団法人砂防学会)
- 17:10 「流域治水に資するレジリエントな建築環境の構」
長谷川 兼一 (一般社団法人日本建築学会)
- 17:20 「農業・農村の強靱化に貢献する農村防災技術」
後藤 高広 (公益社団法人農業農村工学会)
- 17:30 「だれもが参加しやすい避難訓練」
矢守 克也 (日本自然災害学会)
- 17:40-18:00 質疑応答
- 18:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：課題別委員会のため該当しない

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム
「カーボンニュートラル化と資源循環に向けた高分子化学のチャレンジ」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会高分子化学分科会
2. 共 催：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構ムーンショット型研究開発事業伊藤プロジェクト
3. 後 援：公益社団法人高分子学会（予定）
4. 日 時：令和4年（2022年）11月8日（火）13：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）
（新型コロナウイルス感染症の状況によっては、ハイブリッド開催またはオンライン開催を検討）
6. 分科会等の開催：未定

7. 開催趣旨：

プラスチックは私たちの生活を豊かに彩る一方で、持続可能な循環社会という観点からは、原料を石油に依存した生産体制やプラスチックごみによる海洋汚染など、多くの課題を抱えている。これらの課題解決には、再生可能資源を原料としたプラスチックや、海洋を含む広範な環境下で安全に生分解される高度な生分解プラスチック、一次製品と同等レベルの再生品製造を可能にする水平リサイクル技術などの開発・普及が急務であり、生産から廃棄処理までのライフサイクル全体を見渡した材料設計が必須である。本シンポジウムでは、アカデミアの研究者に加えて産業界の研究者にも登壇いただき、これらの課題について、高分子科学、材料科学、環境科学、バイオテクノロジーなどの広い視野から多面的に議論する。

8. 次 第：

趣旨説明（13:00～13:05）

吉江 尚子（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

第1部 講演（13:05～16:10（途中休憩：14:45～14:55））

「炭素循環からみるプラスチックとの付き合い方」

吉岡 敏明（東北大学大学院環境科学研究科教授）

「カーボンニュートラルの実現を目指したグリーンバイオプロセスの開発」

- 乾 将行 (公益財団法人地球環境産業技術研究機構主席研究員)
「炭素循環型高分子合成を目指して」
- 野崎 京子 (東京大学大学院工学系研究科教授)
「カーボンニュートラルに向けた高分子産業での取り組み」
- 小林 定之 (日本学術会議連携会員、東レ株式会社化成品研究所研究主幹)
「人類と自然環境の調和を目指した生分解性バイオマスプラスチックの挑戦」
- 岩田 忠久 (東京大学農学生命科学研究科教授)
「マイクロプラスチック問題の解決に挑む放射光利用のこれから」
- 佐々木 園 (日本学術会議連携会員、京都工芸繊維大学繊維学系教授)
「高分子化学に関わる研究開発への期待」
- 藤田 照典 (日本学術会議連携会員、三井化学株式会社シニア・アドバイザー
一、中部大学先端研究センター教授)

(休憩 16:10～16:20)

第2部 総合討論 (16:20～17:20)

- (パネリスト) 講演者、伊藤 耕三 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域
創成科学研究科教授、国立研究開発法人新エネルギー・産業
技術総合開発機構ムーンショット型研究開発事業伊藤プロジ
ェクトマネージャー、公益社団法人高分子学会会長)
- (モデレータ) 吉江 尚子 (日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

閉会挨拶 (17:20～17:30) 伊藤 耕三 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域
創成科学研究科教授、国立研究開発法人新エネルギー・産業
技術総合開発機構ムーンショット型研究開発事業伊藤プロジ
ェクトマネージャー、公益社団法人高分子学会会長)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連
絡会議

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「コロナ・パンデミックと格差・分断・貧困—現状と今後」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会社会理論分科会、一般社団法人日本社会学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）11月13日（日）14:00～17:00
5. 場 所：追手門学院大学総持寺キャンパス大教室（大阪府茨木市太田東芝町1-1）
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

コロナ・パンデミックは、単なる世界的疫病流行というにとどまらず、人びとの社会生活に重大な影響を及ぼした。リアル空間での交流が抑止されたことにより、労働機会が大きな制約を受けることになり、収入が減ったり、まったく得られなくなった人びとも多かった。反面、いかなる状況であろうと対面での労働をせざるを得ない人びとは、「エッセンシャルワーカー」と呼ばれ、感染のリスクに曝されながら過重な業務に携わっている。このように、コロナ・パンデミックは、世界中に同時期、同じ危機をもたらしたものの、その影響は、それぞれの人の置かれた状況によって大きく異なった。そのため、21世紀に入って急浮上してきた格差・分断・貧困の問題は、いつそう苛酷なものとなった。

本シンポジウムは、コロナ・パンデミックによって拡大する格差・分断・貧困の現状を、多面的に分析し、「誰も取り残さない」ポストコロナ社会を多くの参加者ととともに展望しようとするものである。

8. 次 第：

挨拶

14:00-14:10 開会挨拶&開催趣旨

遠藤 薫（日本学術会議連携会員、一般社団法人日本社会学会常務理事、学習院大学法学部政治学科教授）

講演

◇司会

遠藤 薫（日本学術会議連携会員、一般社団法人日本社会学会常務理事、学習院

大学法学部教授)

- 14:10-15:10 『現代日本における階級構造の変貌とコロナ・パンデミック』
橋本 健二 (早稲田大学人間科学学術院教授)
『コロナ禍における生活困窮と支援制度の役割』
長松 奈美江 (関西学院大学社会学部教授)
『マニラのスクオッター地区からみるコロナ・パンデミック』
石岡 丈昇 (日本大学文理学部社会学科教授)

パネル討論

◇司会

中村 高康 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)

15:10-16:50 パネリスト:

有田 伸 (日本学術会議会員、東京大学社会科学研究所教授)

筒井 淳也 (日本学術会議連携会員、立命館大学産業社会学部教授)

村上 あかね (日本学術会議連携会員、桃山学院大学社会学部社会学科准教授)

岩間 暁子 (日本学術会議連携会員、立教大学社会学部社会学科教授)

挨拶

16:50-17:00 総括&閉会挨拶

山田 真茂留 (日本学術会議連携会員、一般社団法人日本社会学会理事、早稲田大学文学学術院教授)

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：パンデミックと社会に関する連絡会議

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「SDGs と結晶学」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会 IUCr 分科会
2. 共 催：一般社団法人日本結晶学会
3. 後 援：関西学院大学
4. 日 時：令和4年（2022年）11月27日（日）10：30～12：30（予定）
5. 場 所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス（兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155）
（新型コロナウイルス感染症の状況により、ハイブリッド開催となる可能性あり）
6. 分科会等の開催：未定

7. 開催趣旨：

2022年が、「持続可能な発展のための国際基礎科学年」(The International Year of Basic Sciences for Sustainable Development (IYBSSD)、2022年6月30日～2023年6月30日)となったことを受けて、IYBSSD協賛学協会である日本結晶学会の年会において、「SDGs と結晶学」のテーマでシンポジウムを開催する。日本結晶学会年会では、物理・鉱物、化学、生物の三分野の各々でシンポジウムを行うのが通例であるが、今回は年会の参加者が一堂に会する合同シンポジウムの体裁を取り、物理・鉱物分野、化学分野、生物分野より1名ずつ講演者をお迎えして最先端の研究成果をご報告いただく。基礎科学の一分野である結晶学の立場・視点からSDGsについての理解と認識を深め、どのような貢献が可能なのか等について私たち自身が考えを巡らす良い機会となることを趣旨とする。

8. 次 第：(予定)

10:30 シンポジウム「SDGs と結晶学」趣旨説明

上村 みどり（日本学術会議連携会員、特定非営利活動法人情報計算法学生物学会
CBI 研究機構量子構造生命科学研究所所長）

10:45 講演「人工金属タンパク質によるバイオ触媒の開発（仮題）」

庄司 長三（名古屋大学大学院理学研究科教授）

座長：上村 みどり（日本学術会議連携会員、特定非営利活動法人情報計算法学生物学会 CBI 研究機構量子構造生命科学研究所所長）

11:15 講演「光触媒を使った CO2 還元材料（仮題）」
前田 和彦（東京工業大学理学院教授）
座長：小島 優子（日本学術会議連携会員、三菱ケミカル株式会社分析物性研
究所主幹研究員）

11:45 講演「高温高圧実験や惑星地球科学の最新の成果（仮題）」
船守 展正（大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研
究所放射光実験施設施設長）
座長：高橋 功（関西学院大学理学部教授、一般社団法人日本結晶学会年会プ
ログラム委員会委員長）

12:15 閉会の辞
高橋 功（関西学院大学理学部教授、一般社団法人日本結晶学会年会プログラム
委員会委員長）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年」
（IYBSSD）連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

日本学術会議中部地区会議学術講演会
『三重の海の多様性から広がる学術研究』の開催について

- 1. 主 催：日本学術会議中部地区会議
- 2. 共 催：三重大学
- 3. 日 時：令和4年12月9日（金）13：00～16：00
- 4. 場 所：オンライン開催
※三重大学関係者は三重大学（津市栗真町屋町1577）より参加
- 5. 分科会等の開催：同日10：30～12：00に運営協議会等を開催予定
- 6. 開催趣旨：海に囲まれた海洋国日本のなかでも、古くから海との関わりが深い三重。穏やかな内海の伊勢湾、リアス式海岸の志摩半島、そして黒潮の影響を強く受ける熊野灘と続く海岸線は、多種多様な海洋資源に恵まれています。三重大学では、この豊かな三重の海をフィールドにした様々な研究を行ってきました。本講演会では、志摩漁村の海藻漁の展開がもたらした近代東アジアの海藻流通構造の転換に関する研究、そして、異なる海洋環境をもつ2つの海に生息する鯨類の生態研究について紹介します。

7. 次 第

- (1) 13:00～13:10 開会挨拶
三重大学学長 伊藤 正明
- (2) 13:10～13:20 日本学術会議副会長挨拶
日本学術会議副会長 高村 ゆかり
- (3) 13:20～13:30 主催者挨拶
日本学術会議中部地区会議代表幹事 池田 素子
(日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)
- (4) 13:30～13:40 科学者との懇談会活動報告
中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久
- (5) 13:40～16:00 学術講演会の演題及び演者
『三重の海の多様性から広がる学術研究』
 - ・講演「近代東アジアの海藻文化
～志摩漁村から描くグローバルヒストリー～」
三重大学人文学部教授 塚本 明
 - ・講演「鯨類の生態の謎を解き明かす
～伊勢湾と熊野灘の多様なクジラとイルカの物語～」
中部地区科学者懇談会三重県幹事、
三重大学大学院生物資源学研究科教授 吉岡 基
- (6) 16:00 閉会挨拶（司会）
日本学術会議連携会員、三重大学大学院医学系研究科教授 村田 真理子

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

- 8. 関係部の承認の有無：科学者委員会

公開シンポジウム
「文化財保護に未来はあるかー日本の文化財のこれからを考えるー」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会
2. 共 催：岡山大学文明動態学研究所
3. 後 援：一般社団法人日本考古学協会、考古学研究会、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター（いずれも予定）
4. 日 時：令和4年（2022年）12月11日（日）13：00～17：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

長年にわたって日本各地で生まれ、伝えられてきた文化財は、過去からつながるこの地で人々が生きて行く拠り所となるかけがえのない存在である。20世紀後半の経済成長期には、急激な国土開発や都市化の進展を背景に、文化財の保存継承は様々な困難に直面した。そして21世紀。頻発する災害、人口減少による地域社会の衰微の恐れなどにより、文化財保護の行く末は再び不透明なものになりつつある。文化財を取り巻く状況が大きく変わり始めた今日、文化財保護に明るい未来は描けるのか。本シンポジウムでは、文化財防災、改正文化財保護法、地域社会総がかりの取組、更には世界的潮流などの視点から、地域、日本、そして人類の未来にも深くかかわる文化財保護の今後を展望する。

8. 次 第：

- <進行> 宮路 淳子（日本学術会議連携会員、奈良女子大学人間文化研究科教授）
- 13：00 趣旨説明
福永 伸哉（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院人文学研究科教授）
- 13：05 基調報告「持続可能な開発と文化財保護」（仮題）
星野 有希枝（文化庁文化経済・国際課グローバル展開推進室長）
- 13：55～14：05 （休 憩）
- 14：05 個別報告1「文化財防災体制の拡充について」（仮題）
菊地 芳朗（日本学術会議連携会員、福島大学行政政策学類教授）
- 14：30 個別報告2「平成30年の文化財保護法改正が示す文化財防災の方向」（仮題）
岡田 健（奈良大学文学部教授）

14：55～15：05 （休 憩）

15：05 個別報告3 「法改正と文化財保護の未来」（仮題）

杉本 宏（京都芸術大学芸術学部教授）

15：30 個別報告4 「地域主体の文化遺産保存活用－岡山県真庭市の取組みから－」

新谷 俊典（岡山県真庭市教育委員会生涯学習課主幹）

15：55～16：10 （休 憩）

16：10 総合討論

<コーディネーター>

福永 伸哉（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院人文学研究科教授

松本 直子（日本学術会議連携会員、岡山大学文明動態学研究所長・教授）

17：20 閉会の辞

芳賀 満（日本学術会議第一部会員、東北大学高度教養教育・学生支援機構教授）

17：30 閉 会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者は、主催分科会委員）

○国際会議の後援（1件）

以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第19回年次総会

主催：特定非営利活動法人STSフォーラム

期間：令和4年10月1日（土）～10月4日（火）

場所：国立京都国際会館

参加予定国数：約100か国・地域

申請者：特定非営利活動法人STSフォーラム理事長 小宮山 宏

※国際委員会8月29日承認、同国際会議主催等検討分科会8月15日承認

○国内会議の後援（4件）

以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. サイエンスアゴラ 2022（年次総会）

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構

期間：令和4年10月20日（木）～10月22日（土）、11月1日（火）（オンライン）
11月4日（金）～11月6日（日）（実地開催）

場所：テレコムセンタービル他（お台場 青海地区）

参加予定者数：約10,000名

申請者：国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長 橋本 和仁

審議付託先：科学と社会委員会

審議付託結果：科学と社会委員会 承認

2. 第17回医療の質・安全学会学術集会

主催：一般社団法人医療の質・安全学会

期間：令和4年11月26日（土）～11月27日（日）

場所：神戸国際展示場2号館、神戸国際会議場

参加予定者数：約3,500名

申請者：第17回医療の質・安全学会学術集会 大会長 寺井 美峰子

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部 承認

3. 日本生命倫理学会第34回年次大会公開シンポジウム

主催：日本生命倫理学会

期間：令和4年11月19日（土）

場所：関西学院大学上ヶ原キャンパスB号館およびC号館（新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン開催への変更もあり得る。）

参加予定者数：約100名

申請者：日本生命倫理学会 代表理事 香川 知晶

審議付託先：第一部、第二部

審議付託結果：第一部、第二部 承認

4. シンポジウム「社会的共通資本」

主催：東京大学大学院経済学研究科 社会的共通資本寄付講座

期間：令和4年10月10日（月・祝）

場所：東京大学伊藤謝恩ホール

参加予定者数：約100名

申請者：東京大学大学院経済学研究科教授

同社会的共通資本寄付講座 特任教授 松島 斉

審議付託先：第一部

審議付託結果：第一部 承認

○今後の予定

●幹事会

第331回幹事会	令和4年 9月28日(水)	13:30から
第332回幹事会	令和4年 10月24日(月)～26日(水) ※第186回総会期間中に開催予定	
第333回幹事会	令和4年 11月28日(月)	13:30から
第334回幹事会	令和4年 12月21日(水)	13:30から
第335回幹事会	令和5年 1月26日(木)	14:30から
第336回幹事会	令和5年 2月22日(水)	14:30から
第337回幹事会	令和5年 3月23日(木)	14:30から

以降の幹事会日程は追って調整

●総会

第186回総会	令和4年10月24日(月)～26日(水)
---------	----------------------